兵庫教育大学における教員養成フラッグシップ大学
５年目評価結果について

令和８年 11 月 16 日
中央教育審議会初等中等教育分科会教員養成部会
教員養成フラッグシップ大学推進委員会

1. ５年目評価の結果

S 評価：指定期間５年間をとおして、毎年成果を積み上げながら確実に取組を進めていることが特筆できる。教員養成の在り方の変革等を牽引する役割を大いに果たせると期待できる。

2. ５年目評価における４大学に係る総論

○　教員養成フラッグシップ大学に指定され５年を迎える。４大学それぞれにおいて、大学の状況や特長を生かして取り組むなかで、特例を活用した先導的科目・カリキュラムを５年間で着実に実装し、制度趣旨の先導的・革新的な教員養成プログラム教職科目の研究・開発からモデルの提示まで十分に達成されたと評価できる。

○　単なる科目提供や単位互換にとどまらず、連携 FD、コンソーシアムやアライアンス、コンサルテーション及び共同研究等にあげられるように、受入先大学の主体性を引き出しつつ連携の実質化を図る、多様な展開手法を創出した点が成果としてあげられる。

○　独自の自己評価尺度やルーブリックの開発、教育体験・実習との接続等、学生の成長実感や変容を多角的に捉える効果検証の枠組みが整いつつある。現状では、新課程の卒業生が輩出されていないため、引き続き全体の効果検証（教育実習先・勤務先となる学校・旧課程の比較等）を図られたい。

○　中央教育審議会における教職課程や教員免許制度の改革の検討動向との整合性を確保しながら、教職課程において共通で学ぶべき内容と、各学生の強み専門性として体系的に位置付ける学修内容について整理し、その具体的な在り方を示すことや、改革後の教職課程における新たな学習事項に係るコアカリキュラムの検討等において教員養成フラッグシップ大学としての知見を提供することが期待される。

○　今後は、教員養成フラッグシップ４大学協議会での連携・協働を一層強め、「教員養成フラッグシップ大学」総体として、日本の教員養成の在り方の変革等を牽引する役割を果たしていくことを期待したい。また、例えば指定大学から他大学への単位互換を用いた科目の提供や教員の派遣など、実務面において先導的科目・カリキュラムの普及を行うことも期待される。

3. 兵庫教育大学の評価に係る委員会助言

○　教員養成フラッグシップ大学として教員養成スタンダードを再構築し、先導的・革新的なカリキュラムの開発とそれにあわせた減じる科目の構造化、それらの学修効果の検証、横展開に向けた体制整備等、５年間の取組が確実に成果を上げていると評価できる。

○　「学び続ける教師」を核に、DP から教員養成スタンダード（19 の教職基盤）、TSS（Teachers' Standard–based Score）による学修の可視化まで一貫させたカリキュラム再構成は完成度が高い。また、それと整合する形で先導的科目を開発・開講するだけでなく、同時に起きるカリキュラム・オーバーロード解消のため、初等教科教育法を 1 単位化した。加えて、独自の「初等教科授業デザイン（10 科目）」や「小学校授業づくり入門」を配置し、教科教育担当者と「学習観の転換について考えるコミュニティ（FD）」を形成して学びの質の向上と指導観転換を図っている。

○　５５機関が参画する兵教大教員養成フラッグシップ大学コンソーシアムを設立運営し、岩手大学・大分大学・鳴門教育大学等に対して「シラバス・教材等のパッケージ提供及び連携 FD」による自走支援型の普及モデルを「共同研究」というコンセプトも交えつつ確立したほか、他大学での試行実践と検証等を進めている点も特筆でき、多数の学術論文・書籍刊行等を通じた発信も極めて活発であることが評価できる。

○　旧課程で学んだ 2 年次生（2021 年度調査）と新課程で学んだ 2 年次生（2025 年度調査）へのアンケートの比較により、ICT・データサイエンス・STEAM・インクルーシブ教育等に関する意識の有意な向上が確認された。引き続き、教育実習や卒業後の力量への効果の検証、及び他大学が自走導入できる手引き・パッケージの完成に期待したい。